令和2年度

勝浦中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

自ら考え，判断し，表現できる生徒の育成を目指す。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員		
野上昌志	校　　長　戸田　智啓	教　　頭	高田　修作
	教務主任　田内　照男	1年主任	大守　衣代
	2年主任　鎌田　明美	3年主任	澤井　雅美

校長　戸田　智啓　㊞

【各校の取組状況の把握について】

教員同士の授業参観を積極的に行い，取り組み状況の把握を行う。

◎次の (1)～(3) をバランスよく取り組み，学力向上の推進

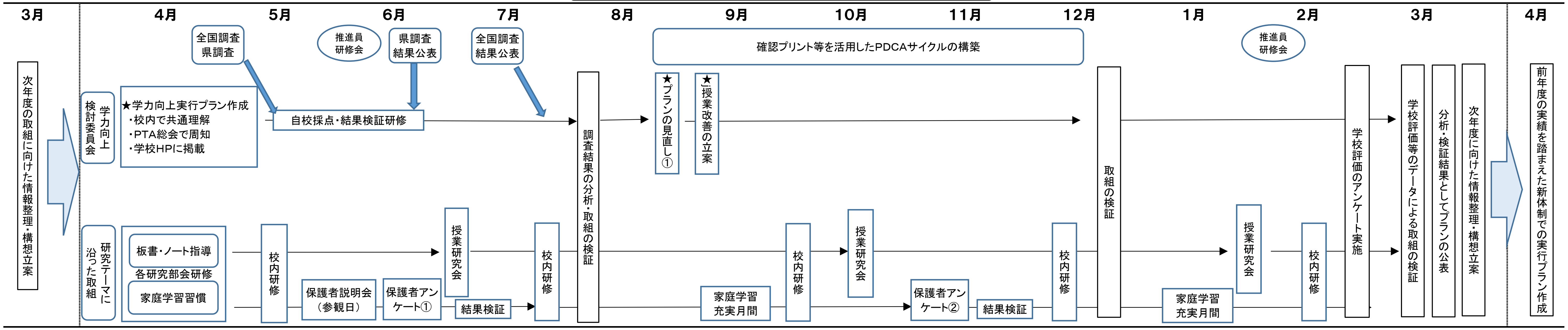
（１)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況(〇よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
〇人間関係も良好であり，落ち着いた学習環境が整っているため，学力を身につけやすい状態にある。授業には真面目に取り組もうとする生徒が多い。見通しがはっきりしている活動には意欲的に取り組むことができる。 ●学習に対して粘り強く取り組むことが難しい生徒も一定数おり，基礎・基本の内容の定着具合も６割程度と課題がある。	授業に意欲的に取り組み，授業の中で知識・技能の向上を図ろうと努力する。授業や家庭学習に粘り強く取り組むことで，基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。	①授業のまとめや振り返りの充実を図る。 ②課題はこまめに与え，確認や指導をする。 ③課題を自力で取り組むことが難しい生徒には放課後の個別指導を工夫し，全員に達成感が得られるように指導する。	知識理解の定着には復習が欠かせない。宿題の形でこまめに課題を出し，家庭学習時間や提出状況を記録し，自己目標に照らし合わせて，達成度や家庭学習が不十分な生徒については言葉がけや指導を行う。	①学年間の差はあるものの，基礎的基本的な事項に関しては80%以上の生徒が達成できていた。 ②他の生徒の取組をまねて勉強方法を改善した生徒もいた。 ③課題の提出に関しては90%以上が出すことができていた。	家庭学習の分量を考え，細かく細分化した課題を出し，すべての生徒が継続して無理なく取り組めるよう最適化する必要がある。課題が提出できない生徒もいるので，放課後の個別指導を工夫し，どの子にも完了感が得られる指導を徹底する必要がある。

（２)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表

児童生徒の状況(〇よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
〇少数ではあるが，積極的に自分の考えを説明しようとする生徒がいる。明るくまじめで，話し手の考えを素直な心で受け止めて，一生懸命に聞くことができる。 ●話し手の考えを一生懸命に聞くことはできるが，考えを受けて感じたことを表現したり，質問をしたりするような言葉のキャッチボールができるような状態には至っていない。自分で物事を考えていく力に弱さを感じる。	自分の考えを自分なりに表現できる。発表を聞いたり文章を読んだりして感じたことを表現し，要点をまとめることができる。	①教材研究において，書く・話す活動を意図的に取り入れる工夫をする。 ②授業の中でペア学習やグループ学習などによる教え合い学習を効率的に設定する。 ③授業や学活等でスピーチを積極的に取り入れ，書かせた後に原稿をできる限り見ずに発表させるよう指導する。	ワークシート等により，自分の意見や考えを文章に起こす作業を各教科で積極的に取り入れ，より一層意識して自分の意見を発表する場面や機会を多く設定していく。同時に，コロナウィルス感染症対策を行い,密にならない環境に工夫する。	①注目すべき観点や紹介した例文に注意して書けない生徒もいるものの，ほぼ全ての生徒が自分の言葉で考え文章で表現することができていた。 ②コロナウィルス感染症対策を行いつつ，グループ学習などを取り入れることでほとんどの生徒で理解が進んだ。	コロナウィルス感染症対策と授業の中でペア学習やグループ学習などによる教え合い学習を取り入れることをさらに行っていく必要がある。距離をとっての活動や，密にならないグループワークを行っていく。同時に，ペア学習やグループ学習の質を上げることも行っていく必要がある。

（３)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(〇よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
〇朝自習に落ち着いて取り組むことができる。時間を惜しんで，課題をやり遂げようと努力するなど，まじめに頑張り成長したいという思いをもっている生徒が多い。 ●朝読書の時間を有効に活用することができていない生徒がいる。「読むこと」の領域に課題がある。頑張りたいという思いを十分に行動に移せていない生徒がいる。	①読書に自主性をもって取り組む。 ②授業において，めあてに関心をもち，意欲的に取り組むことができる。 ③家庭学習において，計画的に取り組むことができる。	①各教室の後ろの本棚を活用し，図書委員会の「おすすめ本」を置いて，自然と読書に関心が向くようにする。 ②授業の最初にめあてと流れなどを説明し,学習の見通しをもって臨ませる。 ③定期的に検定を実施する。検定を受ける意義を伝えた上で積極的に受検できるよう支援する。	読書量をもっと増やせるように生徒会の図書委員会等の活動とも協力し，読書活動の活発化を図る。各種検定においても，より受検生を増やすための呼びかけを積極的に行う。	①ボランティアの方による読み聞かせは，コロナウィルス感染症の流行により回数は減ったが，各学年数回ずつ実施できた。 ②各種検定に関しては，受検する生徒が集まりにくい状況であったが，年間で受検者数５９名，６０%の生徒が受検することができた。	朝読書については，落ち着いて活動はできているものの，すぐに読書活動に入れない生徒も少なからずいた。朝の活動に時間的余裕が少なく，朝の課題をしてから朝読書を行う流れに時間的無理が生じていると感じる。検定受検者については，さらに受検者を増やす取組を続けていく必要がある。

令和2年度　学力向上ロードマップ